

教師に多い病気についての一考察

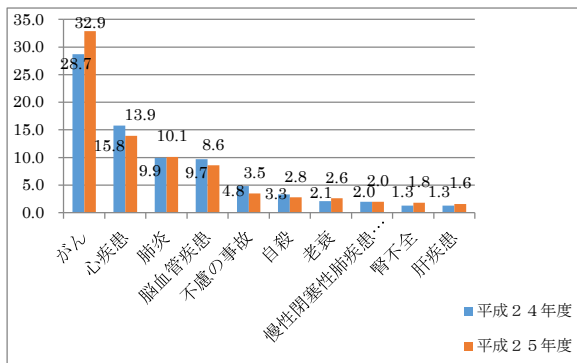
井上 知香 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中菌 伸二

キーワード: 教師, 精神疾患, がん, いのちの授業, 協力

1. 緒言

近年, 教師の休職者が増えている. 病気の休職者のうち精神疾患による休職者は, 平成 14 年から平成 23 年を比較すると, 約 2 倍に増加している. 更に, 図 1 から日本人に多い死因はがんであることが読み取れる. このことから, 教師の精神疾患以外による休職者数の内, がんの割合も多いことが考えられる.



このように, 教師に多い病気で重要と考えられる精神疾患とがんを本研究では取り上げる.

2. 研究方法

精神疾患については, 教師の精神疾患に関する著書および論文から精神疾患の原因について分析を行う. がんについては『輝け!いのちの授業』の著書の事例を分析し, ”いのちの授業 “について検討した.

3. 結果と考察

教師の精神疾患に関する文献の調査により, 精神疾患の原因として大きく 2 つに分類できる. 1 つは精神的要因. もう一つは, 身体的要因である.

精神的要因では, 著書や論文からの事例 7 件から子どもへの対応困難, 攻撃的な親からの言動, 教師同士の支援不足, 先輩や同僚からの叱責などが原因になっていることがわかる.

更に, もう一つの身体的要因では, 1 か月に 100 時間強などの超過勤務が原因になっていることが著書や論文からわかる.

がんについての『輝け!いのちの授業』の著書の分析から, がんを再発し余命宣告を受けても”

いのちの授業 “づくりに取り組む大瀬先生の姿は勇気を与えた. はじめは大瀬校長先生一人で進めていたが, がんによる不調もあり” いのちの授業 “づくりを進めていくためのチームを構成した. 「いのちの授業—鎌倉観音堂その後—」の授業をやり遂げることができたのは, 大瀬校長先生一人でなくチームで協力して取り組んだからであるといえる.

こうしたことから, 協力しあうことが重要ということがわかった.

4. 結論

教師の休職者数は年々増加している. その原因となる病気は精神疾患とがんの割合が多くなっている. 精神疾患については, 労働環境や人間関係が心身ともに負担や影響を与えている. 生徒への支援や保護者への対応などの困難に立ち向かうときの人間的な行動は, 力を合わせることといわれている. これについてはがんにも同様のことが言える. がんを取り上げた”いのちの授業 “では大瀬先生一人の力だけでなく, 同じ職場で働いている同僚の先生の協力があり授業を行うことができた.

私が教育実習を行った学校では, なにかあれば一人の先生が対応するのではなく, 生徒指導と担任と副担任の複数で対応することや, 「学年団」で対応を行っている. このように, 一人で背負い込むのではなく教師同士で協力し合える環境が理想であるといえる.

引用・参考文献

朝日新聞チーム(2011)いま, 先生は. 岩波書店.
文教科学技術調査室 江澤和雄(2013)教職のメンタルヘルスの現状と課題. 国立図書館調査及び立法考査局.
厚生労働省 都道府県労働局 労働基準監督署 (2004)脳・心臓疾患の労災認定. 厚生労働省.
文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課 (2012)教員のメンタルヘルスの現状. 文部科学省.
大瀬敏昭(2004)輝け!いのちの授業. 小学館.